

I C T 授業活用教育実践

対 象	特別支援（施設内教育学級）【中学部 2 年】
教科・科目	英語
単 元	海外の人々に、今、自分が興味をもっていることを伝えよう UNIT 0「 Show and Tell をしよう 」 （東京書籍）
ねらい	授業で学習した表現を使い、海外の人々に、興味をもって取り組んでいることを伝える。シンキングボードを用い、思っていることや伝えたいことを書き出し、整理する。入院中のため直接の交流が難しい状況でも、ICT を活用し、交流の場面を創出する。
I C T 環境 (授業で使用した機器)	iPad(“Split View” 機能搭載機種)2 台 テレビモニタ , Apple TV2 , 無線キーボード
利用したデジタル教材 (アプリ, サイトのアドレス, 資料など)	シンキングボード: アプリ “Sway” , 英語翻訳: アプリ “weblio” メモ: アプリ “メモ”
授業での I C T 機器の活用 方法と手順	<ol style="list-style-type: none"> ① シンキングボードを使って、伝えたい内容、知りたい内容をメモする。 ② 伝えたい順序や一番伝えたいこと、詳しく伝えたいことは何かを吟味し、並べ替える。 ③ メモアプリにテキストデータをコピーする。 ④ 今まで学習した英語表現を使い、英語に置き換える。 ⑤ 分からない表現を翻訳アプリで調べ、テキストデータに加える。 ⑥ 英語の読み上げ機能を用い、会話練習を行う。 ⑦ ビデオアプリを用いて録画する。
授業の工夫 (ポイント)	<p>シンキングボードで、伝えたいことを可視化し、構成や考えを吟味する。 iPad を 2 つの画面に分割し、左画面にシンキングボードで作成した日本語の原稿を配置する。右画面にメモアプリを用いてテキスト入力する。</p> <p>学習した表現を思い出して、分かる部分を訳し、訳せなかった部分を辞書アプリを用いて翻訳する。原文と翻訳文を比較することで、日本特有の文化や常識の違いや、文章構造の違いにより、訳しにくい表現があることにも気付くことができる。</p> <p>完成後に、辞書アプリの読み上げ機能で、音声をまねて、話す練習ができる。授業時間や学習場所に制約があり、海外の方々と直接の交流が難しい生徒でも、ビデオレターを用いることにより、生徒が思いを伝え、それに対して何らかのリアクションを得ることができ、交流につながる。</p>
生徒の様子	非常に意欲的に取り組むことができた。後日返信ビデオを生徒はとても興味深そうな表情で見ており、交流を好意的に捉えていた。

実践例

配当時間		学習の進め方	指導のポイント
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶 前時までに、日本語で作成したビデオレター原稿を確認する。 原稿をメモアプリ“メモ”にコピーする。 	<ul style="list-style-type: none"> テレビモニタにシンキングボードアプリ“Sway”で作成した日本語の原稿をプレゼンテーション形式で表示する。
展開	30分	<ul style="list-style-type: none"> 教科書で学習した表現を思い出して、英語に訳し、メモアプリ“メモ”に入力する。 難しい部分は、翻訳アプリ“weblio”を用いる。 主語、動詞、時制について、見直しをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が、操作方法を例示しながら進める。 iPad上に二つのアプリを同時に開いて作業を行う。 シンキングボードアプリ“Sway”で作成した日本語の原稿を左画面に、訳した英文は、右画面にアプリ“メモ”を用いて入力させる。 語法や語順について意味が通じるものは、そのまま承認する。
		<ul style="list-style-type: none"> 翻訳アプリ“weblio”に、翻訳した英文を入力し、音声を出力する。 音声をまねて、話す練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> アプリの読み上げスピードを調整し、聞き取り、発音しやすい早さで音声を出力させる。
		<ul style="list-style-type: none"> 録画する。 	<ul style="list-style-type: none"> その場に相手がいることを想定し、英語による挨拶、ギター演奏、終わりの挨拶を、編集せず連続して録画させる。
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> ノートに感想を記入する。 挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> 次回の授業で返信を見ることを伝える。

評価

生徒について	生徒の興味・関心	翻訳に集中して取り組むことができた。返信をととても楽しみにしている様子であった。
	生徒の理解	生徒が言いたいことを、教師の支援で平易な日本語に言い換えることで、英語にしやすくなり、授業で学習した表現を使うことができた。
	生徒の情報機器の活用度	iPadの操作は慣れている。“Sway”を操作し、段落がスムーズに入れ替えられることができると「便利だね」との声が聞かれた。
授業について	事前準備の難易度	日本語の下書きから、既習の英語を使つての表現を、ある程度想定する必要がある。生徒の実態に合わせ、翻訳アプリを活用する。
	指導者にとっての授業展開の難易度	日本語の下書きが、予想より文章量が多くなってしまった。主旨を変えないように注意しつつ、翻訳する時間に見合った文章量に短縮した。
	授業の「ねらい」の設定は適切であったか	海外の方に自分が興味のあることを伝えるため、とても意欲的であった。ビデオレターを用い、病院内からの交流を実現できた。
	効果的な指導方法であったか	伝える相手を想起しながらの活動により、学習意欲を高めることができた。

<実践の感想及び反省点等>

I C T機器を活用して、教科書で学んだ内容を、他の人に伝える流れができた。iPadを活用することで、文字を書いたり消したりする負担も軽減させることができた。反省点として、日本語で考えた分量が多く入力に時間を要したため、生徒の負担にならないか心配であった。また、小文字を大文字に直す部分に課題が残った。生徒の実態に合わせ英単語の予測変換を使うことも考えられる。